

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)－文字学に関する既存術語の再検討」

2020 年度第 3 回研究会

日時：令和 3 年 2 月 20 日（土曜日）午後 14 時 00 分より午後 17 時 30 分

場所：Zoom

報告者名（所属）

1) 笹原宏之（AA 研共同研究員，早稲田大学）

「借用された漢字系文字における形音義・用法・表記法・使用集団の変化」

(Changes in form, reading, meaning and register of usage among sinoform characters borrowed into other cultures)

『大漢和辞典』に出典を欠く「紕」という字について，通時的には出自をベトナムに求め，その渡来と字体・用法などの複雑な歴史的展開を探究・整理し，共時的には社会的な変異や辞書記述などの状況を考察しながら，個々の現象に対する文字学に関する既存の術語の適用の可否を確認し，またその不備の指摘とそれに対する方策についての検討を行った。

2) 全員

文字研究の術語に関する討議

(Discussion on the terms for the studies on scripts)

今回は「基字」「（文字学における）音価」について，荒川・澤田が記述案を示し，これを材料に全員が討議に加わった。各種の文字の例も示され，今後「術語集」という成果物を構成する一部として活用できるものと考えられる。

今回も完全なZoom形式となったものの，参加者も多く，活発な議論が行われた。